

# 26Z-am07

リュウキュウコマツナギより単離された新規フラボノイド配糖体

○久枝 彩<sup>1</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>1</sup>, 武田 義雄<sup>2</sup>(<sup>1</sup>広島大院医歯薬,  
<sup>2</sup>徳島大総科)

【目的】リュウキュウコマツナギ *Indigofera zollingeriana* は、マメ科コマツナギ属の植物で八重山諸島、台湾、南中国、インドシナ、東南アジア島嶼部に分布する。今回我々は沖縄県産植物資源の有効利用のための基礎科学的研究の一環として、同植物の葉部の成分について、特に配糖体成分を主に研究を行った。

【方法・結果】リュウキュウコマツナギの乾燥葉をメタノールで抽出し、常法に従い溶媒分配を行い、1-BuOH可溶画分(92g)を得た。本画分を順次、Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィーおよび DCCC、HPLC で分離、精製を行い、新規フラボノイド配糖体 1、2 を得た。新規フラボノイド配糖体は NMR スペクトルを中心に各種スペクトルにより解析を行い、下記の通りに構造を決定した。

